

I. 国際協力事業

1. モザンビーク海外支援事業

【モザンビークにおける活動】

マプト州モアンバ郡マレンガーネ地域(ボンディア、シニャンガニーネ、モプト、ワマニャンガ村含む)における持続可能な社会の実現のためのコミュニティ開発支援活動を中心に活動を実施した。昨年度の主な活動は、以下の通りである。

① ボンディア小学校の教室修繕プロジェクト

カタログハウス社員、学校、会員等のご寄付により、ボンディア小学校における低学年用の教室の修繕をボンディアコミュニティとともに実施した。自然素材の壁で屋根が半分しかなかった教室が、セメントとブロック、トタン板で作り返えられ、雨天でも授業を行えるよう教育環境を改善した。これにより、低学年の生徒約 70 名(全校生徒の 25%)の教室が確保された。

完成した教室と生徒



② 公民館プロジェクト(公民館建設、並びに縫製訓練の実施)

本プロジェクトを地方政府(モアンバ郡政府、マレンガーネ地区担当行政官)と協働することが決定した。同政府、並びにマレンガーネコミュニティと会合を重ね、公民館の建設場所や公民館運営委員会の組織づくりについて意見交換を行った。また、縫製訓練のための指導者の選出、訓練スケジュール作成を行った。

2011 年度中に、これら活動予定を盛り込み、外務省・日本 NGO 連携無償資金協力事業へ申請し、実施する予定だったが、地方政府との交渉等に手間取り、申請書が未完成に終わった。(本件は、2012 年度第 1 四半期中に申請する予定である。)



③ 寄贈自転車の活用・フォローアップ

これまでマレンガーネ地域に提供した自転車の活用状況を把握するため、モニタリング調査を実施し、故障しているものについては、ボンディアにて修理(主にパンク修理)を行った。

また、マレンガーネ地域における自転車活用の需要について理解を深めるため、同地域 4 村 40 名を対象に、同地域行政担当官とともにニーズ調査を実施した。(結果は、2012 年度の案件形成に活かす予定である。)



裂けて使えなくなったタイヤ

④ 支援物資の受領・保管

2012 年 3 月中、支援物資到着を予定していたため、40 フィートのコンテナごと大型トラックで輸送できるよう準備を整えた。また、受領した物資を用途・目的に合わせて配布できるまで、モアンバ郡テクニカルスクールにて保管できるようアレンジを行ったほか、愛媛大学より預かった顕微鏡をルリオ大学に届けるアレンジを行うなど、他団体・個人の協力も行った。



⑤ 調査・視察協力

愛媛に本社を置く金城産業株式会社のモザンビーク進出にかかる業務の支援を行った。

⑥ 事務所・整備運営

NGO 登録の更新、モザンビーク政府への団体の活動のアップデートなど、現地事業実施のために必要な手続きを行い、モアンバ郡テクニカルスクールにおいて事務所機能が整うよう、基盤整備を行った。また、会計報告書・事務処理規定の整備、起案書フォーマットの作成・試用等を行い、事務作業の効率化を図った。

【日本国内における活動】

① 支援物資輸送

2012年1月28日、工業用マシン、自転車、コンパネ板、ランドセル、文房具、医療用品、ベッドなどの物資をモザンビークに向けて輸送した。輸送準備として、分類、箱詰め作業など多くの作業を多数のボランティアにより実施し、愛媛エフ・イー・ゼット株式会社の協力を得て、アイロット事務所棟の部屋を借りて作業を行った。

また、輸送費は、株式会社デジタルマーケットや愛媛県内に設置された募金箱協力店から集まったご寄付、並びに愛媛県 NPO 法人活動助成事業費補助金を輸送費の一部として充てた。



② 帰国報告会の開催

2011年12月27日、現地事情、活動報告会をフェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU で実施し、支援者への説明、事業の理解促進を図った。

③ JICA 研修生交流事業

2012年1月25～26日に JICA 四国からの委託事業として、モザンビーク人研修生 8名の視察アレンジを行った。

④ 募金箱設置

支援物資輸送のための募金箱を愛媛県内の企業・店舗へ設置してもらい、合計 65 店(団体・企業)、61,077 円の募金協力を得た。

2. フィリピン交流

2011年6月22日、フィリピン・ミンダナオ島出身のアリソン・オバオン氏(KAFIN 横浜)をゲストとして招き、政治的不安定な地域の現状や国際交流・協力活動に関する意見交換、音楽を通じた交流会を行い、愛媛大学・国際協力論受講生等 23 名が参加した。(参考:フィリピン・ミンダナオ島は肥沃な土地や鉱物資源に恵まれ、成長の可能性を秘めているにも関わらず政府とモロ・イスラム解放戦線(Moro Islamic Liberation Front: MILF)間の紛争が長期化し、同国内で最も貧困率の高い地域となっている。)

3.フェアトレード普及・促進事業

カフェにおけるアフリカ・モザンビーク料理、フェアトレードコーヒー等の安心・安全な食材を使った飲食の提供、商品展示販売によるフェアトレードの理解促進、普及・啓発資料の提供、国際協力・交流に関する質問・相談の対応、視察・ボランティア受入、フェアトレード商品を使った教材開発を行った。主な内容は以下の通りである。

① カフェ運営

営業時間 11 時～19 時(日・祝日を除く)でのサービス提供を行った。メニュー・店内ディスプレイの改善も随時行った。また、厚生労働省の地域貢献活動事業を活用し雇用創出を行った。

② イベント企画・出店

国際協力に関するイベント、ワン・デイ・シェフ企画の実施および会議室として活用した。また、国際協力・NPO 関係のイベントへ出店し、より多くの方へ当団体の活動を知ってもらう機会となった。**別紙参照「2011 年度カフェイベント一覧」。**

フェアトレード・コミュニティレートの普及・啓発のための地域密着型イベント「わくわくワールド 2011」を 4 月 16 日に東雲公園で開催し、安心安全な食材を使った炊き出し、フェアトレード商品販売、フリーマーケット、民族音楽ライブ等で地域住民約 100 名に参加してもらうことができた。



また、2 月～3 月にかけて「国際協力×震災復興支援市民参加キャンペーン！」として、フェアトレードのコーヒー・チョコレート、震災支援となるクッキーをギフトセットにして販売した。

③ ボランティア・視察の受入・相談対応

調理補助・商品ディスプレイ等、ボランティアに関わってもらった。来店者にはフェアトレードや当団体の活動等について随時説明を行い、国際協力・交流に関する質問等に対応した。

④ 広報

ブログ、チラシの作成、店内外展示の充実に努めた。また、知ってもらうために新聞・雑誌等の取材対応、チラシ・ショップカードの設置依頼、イベント情報の発信を行った。

⑤ フェアトレード教材開発

松山市立小野中学校、新玉小学校において、モザンビーク・マシエネで制作されたバナナ紙を教材に総合学習での試験授業を実施し、教材開発を行った。



II. 環境保全事業

1. 環境省「四国環境パートナーシップオフィス(四国 EPO)」

四国における環境保全活動と持続可能な地域づくりが、地域の自然・社会・経済の特性を活かしながら、効果的に実施されることを目的に、NPO・行政・企業など様々な主体間の連携・協働をコーディネートすることが四国EPOの役割である。そのために、H23 年度は以下の通り事業を実施した。

① パートナーシップ推進業務

■助成金説明会の開催

全国規模の助成金説明会の四国開催を進め、「PanasonicNPOサポートファンド キャパシティブルディングワークショップ&公募説明会」(右写真を参照)を開催した他、「平成24年度 地球環境基金助成金説明会」開催のためのコーディネートを行った。



■ホームページでの中間支援組織との連携による情報発信

スピーディーな情報発信と中間支援組織間の情報共有促進のため、環境分野の中間支援組織や環境関連の施設が発信しているブログなどの情報を自動的に集約する仕組みを構築し、「四国の環境ホットニュース」として四国EPOホームページに情報発信コーナーを設置した。

■中間支援組織との連携促進のためのミーティング

中間支援組織との連携促進や情報交換のため、各地の環境系中間支援組織を中心に意見交換を行い、課題共有などを行った。

② 地域活動支援

■情報発信(ホームページ、メールマガジン、メーリングリスト、メディア)

- ・ ホームページに計498件(月平均42件)の情報を掲載した。
- ・ ホームページ閲覧者数は691名/日と、昨年度比319名/日の減少となった。アクセス減少について原因を調べたところ、実際の閲覧者以外の情報が影響していることが分かり、より正確な情報を得るためアクセス解析ソフトを変更することとした。
- ・ メールマガジン登録者数は259名であり、新規登録者38名であった。
- ・ 四国の環境情報の受発信を進めるため情報共有のためのメーリングリストを運用し、登録者は64名(昨年度比11名増加)であった。
- ・ 四国新聞ウィークリー生活情報紙での環境コーナーや、求人冊子の困み記事「未来のためにできること～エコライフのすすめ～」にて、シリーズでの環境関連記事の提供を行った。

■情報のデータベース

団体や人材、環境保全活動情報等について、分野や組織の種類で検索できるデータベースへ273件の情報を登録し、計300件の情報を蓄積した。

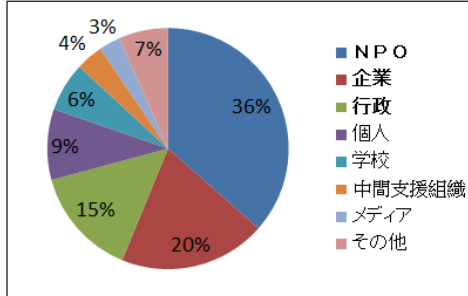
■各種相談への対応

- ・ 相談件数は152件で、相談の主体はNPO54件(35%)、企業30件(20%)、行政23件(15%)、個人13件(8%)、学校10件(7%)の順で割合が多かった。さらに、中間支援組織(5件)、メディア(4件)、その他(財団法人、社団法人等 13件)などであった。
- ・ 相談者の地域内訳:香川 61%、愛媛 13%、徳島 10%、高知 3%、四国外 13%
- ・ 主な要望の割合:NPO等(個人含む)の活動に関する情報 38 件、専門的な情報 24 件、広報

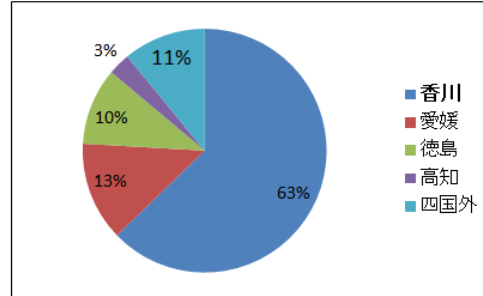
24 件

- ・ 主な相談テーマの内訳: 3R31 件、環境教育 28 件、地球温暖化 23 件、資源・エネルギー19 件

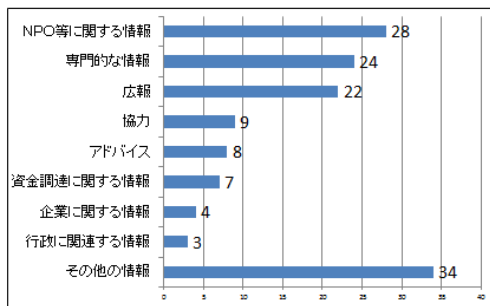
相談のあったセクターの内訳



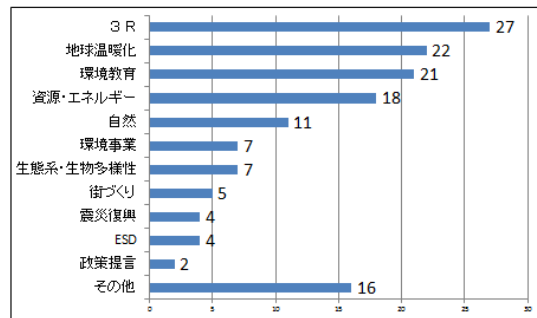
相談のあった地域の内訳



相談のあった要望の内訳



相談のあったテーマ内訳



■エコイベントのサポート

「MONSTERbaSH2011」エコプロジェクトにて、来場者によるゴミ分別促進や環境意識の向上のために関係者間のコーディネートを行い、NPOが作成した環境配慮の啓発掲示物の設置や、環境活動を行っている学生のNPOを通じたボランティア参加を実現した。

③ 環境教育活動支援

■環境学習読本の作成

昨年度実施した小中学校を対象とした環境教育アンケートを踏まえ四国で活用できる環境教育教材として、子ども向け環境読本「つながる四国の水」を作成した(右写真を参照)。

■教育関係機関等との情報交換や活動支援

各県の教育委員会や先生方による教育研究会等へ参加し、ネットワークづくりや情報提供などを行った。

④ 事業型環境NPO・社会的企業の支援活動

一昨年前に実施された同モデル実証事業の採択団体である「NPO法人アーキペラゴ」「しまの会社」を訪問し、現在どのような状況であるかについてヒアリングし、HPにて情報発信を行った。

⑤ ESDによる環境保全活動

■「ESD学びあいフォーラム」開催(日時:10月2日、参加者:31名)



ESDを広く紹介するため、EPO東北の協力のもと東日本大震災後に見られる地域での街づくりをテーマにフォーラムを開催し、南海地震の可能性のある四国での対応について、ESDと結び付けて考えるきっかけを提供した。

■「ESDセミナー」の開催

・「ESDセミナー徳島」(日時:12月3日、参加者:26名)を、丹下晴美先生を講師に迎え「外国の事例に学ぶ地域づくり 真に豊かな地域とは」と題して開催した。海外の環境に配慮した街づくりの事例紹介によって具体的なESDについて理解を深めるきっかけとなった。

・「ESDセミナー高知」(日時:1月28日、参加者:11名)を、黒潮実感センター長の神田優氏を講師に迎え、「持続可能な里海づくり」と題して開催した。同センターが高知県大月町柏島の地域住民と共に、自然を「実感する」「守る」「活かす」取り組みを通して、柏島の自然環境をどのように守っているのかが紹介された。

⑥ 政策提言能力の向上

■「環境政策提言セミナー」開催

(日時:11月13日、参加者:19名)

NPO法人シーズ・市民活動を支える制度を作る会による政策提言に関するポイント説明や、政策提言を想定したワークショップを行い、環境政策へのアプローチについて考えるきっかけづくりを行った(右写真を参照)。



⑦ 施設・物品の管理等

仕様書に基づき、適切な運営や来客対応を行った。

⑧ 運営委員会の開催

年度初め(5月)の第1回運営委員会にて事業計画についての検討を行い、年度末(3月)の第2回運営委員会では事業報告や次年度に向けた意見交換等を行った。

⑨ 全国EPOネットワーク

6月、11月、1月に、全国のEPOスタッフおよび環境省担当者等が一堂に会し、EPO事業に関する情報共有や意見交換等が行われた。また、EPO間連携を実施し、ニーズに応じた講師の紹介や「生物多様性学習会」「ESD学びあいフォーラム」などの協力開催を行った。

【総括】

H23年度は、環境教育事業にて昨年度のアンケート調査から得られたニーズをもとに「子ども向け環境読本」を作成し、環境省より環境教育への取組について他のEPOの中でも高い評価を得た。また、EPO事業を行う上で必要な情報として、新聞などから得た情報を地域や分野別で検索がかけられるデータベースを作成し、基礎となる情報の蓄積を行った。その他、EPOネットワークでは、EPO間での連携を進めた他、EPO全体の目標検討などの会議へ参加することで地域からの意見発信を進めた。

次年度は、これらの結果や2期目の3年目であることを踏まえ、読本の利用促進やパートナーシップ事例の創出といった、具体的な結果を出していくことや情報の見える化に注力していく予定である。

2. 改正環境教育等推進法意見交換会業務

平成23年6月15日、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(改正環境教育等推進法)が公布され、平成24年10月1日から完全施行されることとなった。

多様で複雑化する環境問題を解決し、持続可能な社会を実現するためには、環境保全活動において、NPO/NGO・企業・行政などの協働がますます重要になってきている。今回の改正では、環境保全活動や環境教育の幅広い実践的人材づくりに向けて、学校教育における環境教育の充実、環境行政への企業やNPOなど民間団体の参加および協働による取り組みの推進などの他、自治体による環境教育・協働取組に関わる行動計画の策定の努力義務が盛り込まれ、制度化された。

本事業では、基本方針策定に向けて、四国内の環境教育や環境保全活動に携わる関係者の意見を反映させることを目的として、改正環境教育等推進法意見交換会を開催した。

【概要】

日 時：平成23年10月2日(日)13:00～15:00

場 所：愛媛県美術館 講堂

参加者：40名

主 催：環境省中国四国地方環境事務所高松事務所
四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)

内 容

・趣旨説明、挨拶

塚田 源一郎 氏(環境省中国四国地方環境事務所高松事務所所長)

・改正環境教育等推進法の説明

増井 久輝 氏(環境省総合環境政策局環境教育推進室長補佐)

・パネルディスカッション

コーディネーター：小林 修 氏(愛媛大学国際連携推進機構アジア・アフリカ交流センター准教授)

コメンテーター：白松 賢 氏(愛媛大学教育学部 准教授)

パネリスト：井上 修 氏(善通寺こどもエコクラブ 代表)

川崎 弘佳 氏(高知市立昭和小学校 教頭)

三宅 裕之 氏(徳島県県民環境部環境総局環境首都課 主任)

増井 久輝 氏(環境省総合環境政策局環境教育推進室長補佐)

塚田 源一郎 氏(環境省中国四国地方環境事務所高松事務所所長)

・基本方針策定に向けての意見交換



【総括】

改正環境教育等推進法の背景や法律の全体像、ポイントなどについて、法改正に携わった環境省担当官より説明があり、法律についての理解を進めることが出来た。また、現場で環境教育に取り組む関係者などを交えたパネルディスカッションを行い、「協働をコーディネートできる人材」「先生が異動になっても教育の質が落ちない仕組み」「目に見えないものを想像する力」の重要性などについて意見がでた。また、参加者とも意見交換を行うことで、今後改正法の基本方針を策定するにあたって、四国の現場で取り組む方々の様々な想いを伝える機会となった。

3.大川清掃活動・めだか調査

愛媛県「愛リバーサポーター制度」に登録しており、護国神社前を流れる大川の清掃を6月4日に行った。参加者は27名、河川の清掃・めだか調査とともに、去年に引き続き水質検査も行った。清掃には東雲・清水小学校の生徒の参加が多く、大川近隣校区の生徒・保護者、学生に参加してもらうことで地域ネットワークが広がった。

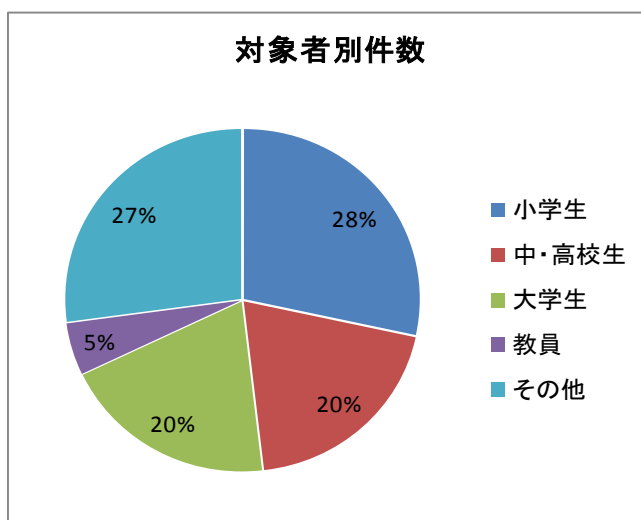


Ⅲ. 教育・ネットワーク事業

1. 講師派遣および持続可能な開発のための教育(ESD)普及・促進

総合的学習(国際理解教育・環境教育・平和教育・人権教育)の講師として、小・中・高校、大学、教員、その他(NPO、企業、研修生等)から派遣依頼を受け、延べ81件(平均6.75回/月)の講演を行った。

講師派遣対象者	人数	件数
小学生	1,781	24
中・高校生	2,656	16
大学生	801	16
教員	25	4
その他	1,033	22
合計	6,225	81



■2011年度講師派遣一覧

No.	月	日	曜日	名称/内容	場所	主催
1	4	13	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
2		20	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
3		25	月	香川大学国際協力論	香川大学	SNN
4		27	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
5	5	2	月	平和の語り部・椿小学校	椿小学校	松山市
6		16	月	GLOCOL 講演会・ワークショップ	大阪大学	大阪大学GLOCOL
7		21	土	MIC 講演会	コムズ	MIC
8		19	木	小野中 ESD	小野中学校	小野中学校
9		26	木	小野中 ESD	小野中学校	小野中学校
10		31	火	平和の語り部・桑原小学校	桑原小学校	松山市
11	6	2	木	小野中 ESD	小野中学校	小野中学校
12		8	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国

13	14	火	NGO 相談員出張サービス・国際協力とアフリカ	新居浜東高等学校	新居浜東高等学校
14	15	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
15	21	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
16	24	金	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
17	25	土	(-26日)NGO 相談員出張サービス・ESD-J 全国ミーティング	宮城教育大学	ESD-J
18	28	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
19	29	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
20	30	木	小野中 ESD	小野中学校	小野中学校
21	4	月	平和の語り部・津田中学校	津田中学校	松山市
22	6	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
23	8	金	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
24	11	月	イヨココロザシ大学	愛媛大学	イヨココロザシ大学
25	14	木	小野中 ESD	小野中学校	小野中学校
26	15	金	平成 22 年度(財)自治体国際化協会国際交流・国際協力・多文化共生支援事業事例報告会における事例発表について	日本財団ビル	(財)自治体国際化協会交流支援部 経済交流課
27	17	日	高知大学国際協力論	高知大学	高知大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
28	18	月	NGO 相談員出張サービス・NGO ネットワーク特別講演会	愛媛大学	EGN、CCWA愛媛の会、
29	27	水	愛媛大学国際協力論	愛媛大学	愛媛大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
30	6	土	オイスカ四国研修生講義	愛媛大学	オイスカ四国研修センター
31	8	月	外国人の人権	松山市役所	松山市役所
32	24	水	ユネスコスクール・フォーラム	徳島市中央公民館	鳴門教育大学
33	9	金	土木学会分科会	愛媛大学	土木学会
34	10	土	高知大学国際協力論	高知大学	高知大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
35	11	日	高知大学国際協力論	高知大学	高知大学、四国 NGO ネットワーク、JICA 四国
36	13	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
37		月	東雲小学校・打合せ	東雲小学校	東雲小学校
38	19	月	清水小学校・打合せ	清水小学校	清水小学校
39		月	新玉小学校・打合せ	新玉小学校	新玉小学校
40			新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
41	20	火	清水小学校・総合的な学習	清水小学校	清水小学校
42			東雲小学校・総合的な学習	東雲小学校	東雲小学校

43		22	木	小野中ESD	小野中学校	小野中学校
44		25	日	生涯学習センター国際協力講座	愛媛県生涯学習センター	愛媛県生涯学習センター
45		29	木	小野中ESD	小野中学校	小野中学校
46	10	11	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
47		26	水	オイスカ四国研修生講義	フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU	オイスカ四国研修センター
48		6	木	小野中ESD	小野中学校	小野中学校
49		20	木	小野中ESD	小野中学校	小野中学校
50		27	木	小野中ESD	小野中学校	小野中学校
51		28	金	松山大学社会人セミナー	松山大学	松山大学
52	11	3	木	宇和島南中学校講演会	宇和島南中学校	宇和島南中学校
53		10	木	小野中ESD	小野中学校	小野中学校
54		15	火	平和の語り部・伊台小学校	伊台小学校	松山市
55		19	土	国際協力と人権	久米中学校体育館	松山市人権啓発課来住ふれあいセンター
56		22	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
57		24	木	NGO 相談員出張サービス・NGO-JICA 協議会	ひろしま国際センター	JICA
58		28	月	平和の語り部・堀江小学校	堀江小学校	松山市
59		29	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
60		29	火	清水小学校講演会	清水小学校	清水小学校
61	12	3	土	環境 NPO/NGO 情報発信力向上講座	コムズ	NPO 情報研修センター(TRC)
62		4	日	協働と地域活性化の可能性～コミュニティ・レストランの事例を交えて～	宇和島市総合福祉センター	愛媛県
63		6	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
64		8	木	外国人の人権とESD(持続発展教育)～多文化共生社会づくりのために～	西条市総合福祉センター	愛媛県県民環境部管理局人権対策課人権啓発課
65		9	金	松山大学・川口ゼミ講演会	松山大学	松山大学
66		18	日	生涯学習センター国際協力講座	愛媛県生涯学習センター	愛媛県生涯学習センター
67		19	月	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
68		19	月	NGO 相談員出張サービス・NGO 無償連携事業勉強会	EGNネットワークオフィス	EGN、AMDA
69	1	16	月	NGO 相談員出張サービス・国際協力とアフリカ	宿毛高校	宿毛高校
70		17	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
71		22	日	NGO 相談員出張サービス・国際協力と地域活性化	高松市男女共同参画センター	cocokara

72		24	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
73		25	水	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
74		26	木	今治病院講演会	今治病院	今治病院
75		31	火	新玉小学校・総合的な学習	新玉小学校	新玉小学校
76	2	1	水	伊予ロータリークラブ卓話	伊予商工会議所	伊予ロータリークラブ
77		2	木	人権講演会	溝辺ふれあいセンター	松山市民部人権啓発課溝辺ふれあいセンター
78		22	水	校内研修会(ESD教育)	松山市新玉小学校パソコン室	松山市立新玉小学校
79		26	日	NGO 相談員出張サービス・NPO 交流会	愛媛 CATV	まつやま NPO サポートセンター
80	3	3	土	東日本大震災-愛媛でできる支援活動-	愛媛県生涯学習センター	愛媛県生涯学習センター
81		14	水	平成 23 年度第 3 回市町社協テーマ別研修会	ひめぎんホール 3 階第 6 会議室	愛媛県社協職員連絡会

■生物多様性事業

ESD-J(持続可能な開発のための教育の10年推進会議)との連携および下記の事業を通して、ESDの普及・促進に努めた。

四国 CBD ネットの運営協力を行い、主に会計業務のサポートを行った。また、ESD-Jからの委託事業として、生物多様性を大切にしたい地域づくりを担う人材育成モデル事業のひとつに「動物園×生物多様性」をテーマに選び、「世界とつながる生物多様性」を学ぶ拠点として、地域の動物園「愛媛県立とべ動物園」をどのように活用し「学び」につなげていくことができるかその可能性を検証し追求することを目的とした研究会を3回実施した。



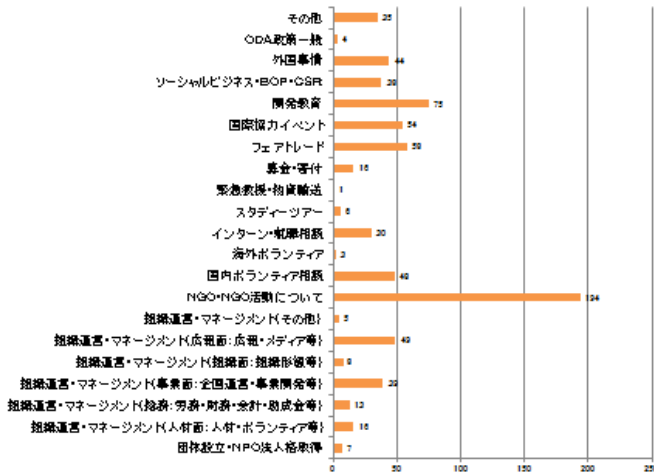
■松山国際交流協会ESDコーディネーター派遣制度

2009年度から松山市、松山国際交流協会、松山市内の学校と連携し、アフリカ・モザンビークを題材に「開発途上国の現状を理解し、持続可能な社会づくりに資する教材・カリキュラムの開発」に取り組んできた。このESD教材・カリキュラム開発では、官・学・民が連携し、それぞれが持つ人材やノウハウを活用する“しくみ”の構築を目指してきた。学校が、NPO/NGO等の市民活動を行う関係者と連携を図るしくみづくりの第一歩として、松山国際交流協会では2011年度からNPOを講師とした「ESD コーディネーター派遣事業」を開始した。この制度を活用し、松山市内の小学校3校、中学校1校に打合せ・事業実施・次年度に向けてのふりかえりを行った。学校の予算が不足していても、この派遣制度を活用することで、学校とNPO/NGOの連携が可能となった。

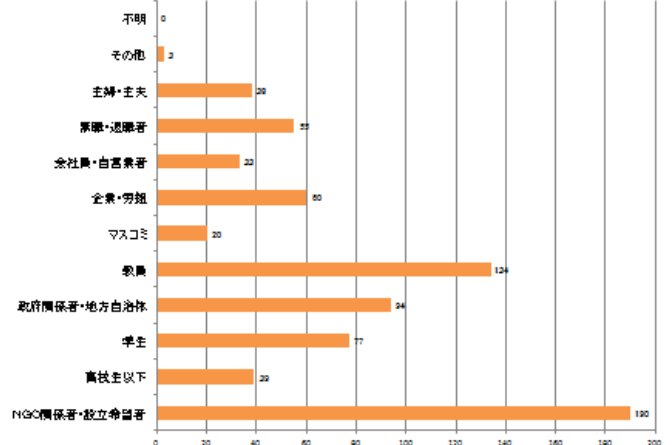
2. 外務省委嘱 NGO 相談員業務

外務省の委嘱を受け、2011年5月2日より2012年3月31日まで NGO 相談員としての相談業務に応じた。毎月報告書を提出し、出張サービスを11回実施した。相談件数は、合計743件、月平均67件であった。また、第1回(東京)、第2回(名古屋)「NGO 相談員連絡会議」に出

相談内容別(743件)



相談者別



席した。

No.	実施月日	出張サービス先	形態	企画概要	主催/場所
1	6月14日	愛媛県新居浜東高等学校	講演・その他	「国際協力とアフリカ」をテーマに講演し、モザンビークの現状と当団体の国際協力活動を事例に国際協力の必要性や自分に何ができるかを考えてもらった。	愛媛県立新居浜東高等学校/愛媛
2	6月24-25日	「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議	相談対応サービス・講演・その他(展示)	認定 NPO 法人国際ボランティアセンター山形と連携し、ESD-J 全国ミーティングで NGO 相談員の紹介および国際協力 NGO の震災復興に関する活動紹介を行った。	宮城教育大学/宮城
3	7月18日	CCWA 愛媛の会	講演・その他(展示・全体コーディネート)	愛媛県内のネパール支援を行う団体のネットワーク構築を目的に講演会の企画～実施、報告書作成等のコーディネートに協力した。	愛媛大学/愛媛
4	10月1-2日	外務省	相談対応	NGO 相談員受託団体で共同ブースを設け、市民からの NGO や国際協力に関する質問等に対応した。	日比谷公園/東京
5	11月24日	JICA-NGO 協議会	相談対応	四国地域における開発教育や国際協力の実施、JICA との連携に関する情報提供や今後の連携強化を図る具体的な方法について対応した。	ひろしま国際センター/広島
6	11月27日	愛媛県国際交流センター	相談対応	国際協力活動に興味を持つ学生や地域のお年寄り、ボランティアを考えている来場者の相談等に対応した。	愛媛県国際交流センター/愛媛
7	12月17日	まつやま国際交流センター	相談対応	ブースを設け、フェアトレードについての説明やボランティアを考えている来場者の相談等に対応した。	まつやま国際交流センター/愛媛
8	12月19日	IMCCD	その他(勉強会開催)	日本 NGO 連携無償資金協力事業の経験のある AMDA 社会開発機構と連携し、プロジェクト形成、N 連の申請・実施・評価についての勉強会を開催した。	EGN ネットワークオフィス/愛媛
9	1月16日	高知県立宿毛高等学校	講演・ワークショップ	地域に根ざした国際協力活動について学び、高校生として何ができるのかを考えてもらった。	高知県立宿毛高等学校/高知
10	1月22日	Cocokara	講演	大学生、一般を対象に国際協力型コミレスの事例紹介を行い、地域で国際協力活動を行う意義について理解促進してもらった。	高松市男女共同参画センター/香川
11	2月26日	まつやま NPO サポートセンター	相談対応	NPO・企業・行政の交流会で松山市内・近辺で活動する国際交流・協力団体の活動紹介を行った。	愛媛 CATV/愛媛

4. ネットワークオフィス運営

カフェに近い物件を賃貸し「ネットワークオフィス」として、国際・環境等の取組みを行う他団体の情報受発信を行う拠点として、ネットワークを強化しながら利活用を促進した。但しオーナーの都合により3月31日に移転しなければならなくなったため第三森ビルへの移転を行った。

5. 愛媛県 NPO 等活動基盤強化支援事業

愛媛県社会福祉協議会より、平成23年度愛媛県 NPO 等活動基盤強化支援事業地域貢献活動参加促進事業として、①愛媛県内企業の「CSR 活動」への理解促進(普及)、②愛媛県内企業の「CSR 活動」の活性化(地域連携促進による質の向上)を目的としてセミナーを開催した。

また、CSR パンフレットを 1,000 部作成し、愛媛県内 NPO、企業へ配布した。



6. 日本・モザンビーク市民友好協会事務局運営・ダイアログ開催・アリ首相来県アレンジ

当団体に事務局を置く「日本・モザンビーク市民友好協会」として、2012年10月4日、橋本栄治・駐モザンビーク日本国大使館特命全権大使の愛媛訪問を機に、日本・愛媛とモザンビークをつなぐ記念イベントとしてゲストを迎え、ダイアログを通して、愛媛発・オールジャパンの国際協力の可能性を語り合った。

また、2012年2月23日、アリ・モザンビーク首相をはじめとする要人が来県された際に市内視察、訪問先のアレンジを行った。



7. 四国 NGO ネットワーク(SNN)事務局運営

SNN 事務局として、会員・HP・会計管理など全般を行い、271号～290号のメルマガ配信を行った。愛媛大学「四国・国際協力論」(主催:SNN・JICA 四国・4大学)のコーディネートを担った。また、第14・15回四国 NGO 研修、四国 NGO ネットワーク総会、JICA 四国・四国 NGO ネットワーク共催の会議「NGO ラウンドテーブル」、に参加した。また、3月20日に広島で開催された2011年度中国地域NGOネットワーク会議、11月24日に広島で開催された第3回 NGO-JICA 協議会、3月6日に名古屋で開催された第4回 NGO-JICA 協議会へ参加した。

8. 東日本大震災支援活動

3月11日に発生した東日本大震災への支援活動として、4月2日～8日の6日間、愛媛大学、聖カタリナ大学、松山大学、東雲大学の学生達述べ35名の学生との連携により「街頭募金活動」を実施した。また、当団体インターンとボランティアを愛媛県社会福祉協議会ボランティアバスへ派遣し、女川町でがれき撤去作業等の手伝いを行った。



8月にNPO法人国際ボランティアセンター山形を通じて25万円支援金を寄付し、「キャッシュフォーワーク」の支援を行った。

東日本大震災がんばろう支援ネットワークまつやまを通じて、愛媛県内の避難者へ5台の自転車を提供したほか、松山市立図書館に新聞3紙(河北新報、福島民友、福島民報)を3月末まで設置した。

9. コグウェイ四国

海外の自転車愛好家を四国に招集し、「おもてなし」や「お遍路文化」などを通して、自然豊かな素朴な日本に触れていただきながら、しまなみ海道(愛媛)、金刀比羅宮(香川)、吉野川(徳島)、四万十川(高知)などを周遊し、地元の人たちとの交流により、四国の魅力を世界中にアピールするとともに、自転車で人と人が繋がる輪の創出をする「第一回コグウェイ四国サイクリングプロジェクト」を実施した。

コグウェイ四国実行委員主催の9月20日のゴールイベント、松山市立新玉・東雲・清水小学校における交流、フェアウェルパーティーのアレンジ・実施サポートを行った。



10. コミレスネットワーク四国

四国内のコミレス実践者がつながるゆるやかなネットワークとして、メーリングリストの管理・運営を行い、全国のコミレスネットワークとの情報発信を行った。愛媛県内の個人・団体からコミレスの立ち上げについての相談対応、メディアからの実践事例の取材依頼等に対応した。

11. NGOネットワーク特別講演会開催

18年間、ネパールの住民から「OKバジ」の呼称で親しまれてきた垣見一雅氏独自の支援方法は、「現場優先」、そして、地域に根ざす「住民主体型」である。この度、CCWA愛媛の会より「垣見氏を招き、講演会を開催したいが協力してもらいたい」という相談を受け、松山国際交流協会の助成を得て、愛媛とネパールのつながりのある団体、JICA、愛媛大学とともにヨコのネットワーク構築を図りつつ講演会を開催し、今後のネパール支援の在り方をさまざまな角度で探るパネルディスカッションを行うこととした。また、NGO相談員が本件講演会のコーディネート役を積極的に担うことで、地元のNGOに相談員の役割をより深く理解・認識してもらう機会とし、地域に根ざすNGOの国際協力活動の一般市民への理解を深める機会となった。本年が国際森林年であること、環境・バイオマスエネルギー問題との関連がある内容なので、国際協力に関心がある層だけではなく、環境・エネルギー問題に興味がある市民層へのアプローチの一助となるよう企画することができた。また、愛媛県内でネパール支援を行う団体を紹介するパンフレットを作成した。



IV. 管理運営等

1. 組織運営

① 事務局運営・役員体制

事務局運営は、地域貢献活動雇用助成金を活用したパートスタッフの増加を図った。

役員体制については、理事・監事・顧問が東京、香川、愛媛(松山・西条)に在住であることから理事メールを活用し、意見交換を図った。5月22日、1月21日に理事会を開催し、事業内容および組織運営に関する意見交換を図った。2011年度の理事体制は以下の通り。

なお、大変残念ながら顧問の矢野玄氏をご逝去された。(心より冥福をお祈りしています。)

役 職	氏 名	現 職
代 表 理 事	竹 内 よ し 子	えひめグローバルネットワーク代表理事
理 事	上 田 稔	松山市産業経済部観光産業振興課国際観光推進監
	大 平 健 二	JICA モザンビーク専門家
	岡 田 奈 知	翻訳・通訳家
	黒 河 由 佳	自営業(取材・執筆・編集)
	世 古 一 穂	NPO 研修・情報センター代表理事
	藤 山 健	Naturel オーナー
	松 本 啓 文	四国 EPO 所長
	山 田 美 緒	サイクリスト
監 事	鈴 木 靖 彦	JAえひめ
	萩 森 一 路	愛媛県社会福祉協議会地域福祉振興班
顧 問	薦 田 伸 夫	弁護士
	藤 本 豊 實	(株)アドバンテック顧問
	矢 野 玄	愛媛新聞社(6月26日ご逝去)

役員総数:10名(理事:8名 監事:2名)、顧問:3名(6月26日以降2名)

② JICA アドバイザー派遣

JICA 地球ひろばへの申請を行い、「NGO 組織強化のためのアドバイザー派遣(経理・会計)」事業で会計のしくみづくりを行った。アドバイザーは、2004年に外務省民間公益補助金の精算処理の際に監査を依頼した際、適切なアドバイスをしてもらった菊池博俊・公認会計士に依頼した。合計11回の指導があり、会計王活用方法も含めて会計処理の簡素化・効率化を図るための具体的なアドバイスを受けた。また、会計分野だけではなく、組織全体の経営という視点から事業整理・評価等について提案いただいた。

③ 広報

会報は2011年夏・秋・冬号を発行した。また、会員へのメルマガ配信を20回行った。ホームページ、カフェ・ブログ、モザンビーク・ブログについては、随時更新した。

また、各種メディアの取材に応じ、新聞・テレビにおいてEGNの活動を広く紹介し、NGO活動への理解や参加促進を図った。

④ 当団体活動紹介・掲載

他団体・個人による当団体の活動紹介・掲載記事については、以下の通りである。

■当団体活動紹介・掲載

No.	発行月	企画/発行元	名称	内容
1	6月	(株)アイクコーポレーション	Komachi	フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU のフェアトレード商品紹介。
2	7月	(株)エス・ピー・シー	タウン情報まつやま	フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU のメニュー、フェアトレード商品紹介。
3	8月	ESD-J	ESD×生物多様性しんぶん夏号	世界の生物多様性を学べる動物園としてのとべ動物園を考える勉強会の様子を紹介。
4	11月	(株)アイクコーポレーション	Komachi	フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU のフェアトレード商品紹介。
5	11月	ESD-J	ESD×生物多様性しんぶん秋冬号	とべ動物園「Watching Zoo Watchers」の紹介。
6	12月	日本語情報誌『City Bros』上海編集部	CityBros	フェアトレードカフェ&雑貨 WAKUWAKU のフェアトレード商品紹介。
7	12月	DEAR	DEAR ニュース 154号	実践事例報告:「小野中 ESD チーム」35時間の授業の紹介。
8	1月	「ぼあん」編集部	ぼあん	当団体の設立経緯、活動紹介。
9	2月	ナレーション	月刊インタビュー	当団体の活動紹介。
10	3月	ESD-J	ESD×生物多様性しんぶん春号	ネイチャーゲームから学ぶ生物多様性の紹介。

■新聞掲載記事

No.	掲載月日	新聞社名	題名	内容
1	4月9日	愛媛新聞	東北にボランティア次々	当団体インターンの東北ボランティア派遣についての紹介。
2	4月9日	読売新聞	ボランティア宮城へ	当団体インターンの東北ボランティア派遣についての紹介。
3	4月12日	愛媛新聞	子どもの心長期ケアを	当団体インターンの宮城県女川町でのボランティア体験について紹介。
4	4月16日	愛媛新聞	要望多様支援継続を	当団体インターンの宮城県女川町でのボランティア体験について紹介。
5	4月16日	読売新聞	ボランティア後に続いて	当団体インターンの宮城県女川町でのボランティア体験について紹介。
6	8月16日	徳島新聞	10月1日四国活性化フォーラム	四国 EPO で企画開催した四国活性化フォーラムの紹介。
7	9月21日	愛媛新聞	四国一周の思い出は?	コグウェイ四国「四国ディスカバーライド 2011」の学校交流の様子を紹介。
8	10月5日	愛媛新聞	国際協力どう進める?	「国際協力ダイアログ」での愛媛発オールジャパンの国際協力についてのディスカッションの紹介。
9	2月24日	愛媛新聞	モザンビークと愛媛の絆	アリ・モザンビーク首相来県時の紹介。

以上